

PRESS RELEASE

報道協力資料／日建設計
2017年9月6日

報道関係者各位

ウラジオストク市都市開発マスタープラン策定 業務：Gateway to Innovation を目指して

～日建設計は、ロシア連邦の政府系機関と協力して、ウラジオストク市の都市開発ビジョン及び開発戦略、並びに重点的開発エリアにおける都市開発マスタープランを策定する業務を実施中～

株式会社日建設計（代表取締役社長：亀井忠夫）は、ロシア連邦の政府系機関と協力してウラジオストク市の都市開発マスタープランを策定する業務を実施しています。

昨年12月、日建設計はロシア連邦政府の関連機関であるAgency for Housing Mortgage Lending（住宅信用担保機構。以下「AHML」）との間で、住宅・都市開発に関する協力についてのMOUを締結しました。本業務は、このMOUに基づき、AHMLの傘下の研究機関であるIntegrated Development Institution for the Housing Sector（住宅統一開発研究財団）からの委託業務として、昨年12月に開始したものです。業務では、ロシア連邦沿海州政府が策定中の都市総合計画（GENPLAN(General plan)）を踏まえつつ、ウラジオストク市における都市開発ビジョン及び都市開発戦略、並びに重点的開発エリア（Strategic Development Area）における都市開発マスタープランをAHMLと協力して策定することになっています。

現在、業務の第一ステージである都市開発ビジョン及び都市戦略の策定がほぼ終了し、ウラジオストクのポテンシャルである自然環境、並びに歴史的資源及び教育・研究施設の集積を活用し、革新的な産業（Innovative Economy）や観光産業を育成する「Gateway to Innovation」を目指すことを都市開発ビジョンとして提案しました。また、戦略的アクションとして、港湾機能の一部移転による中心市街地とウォーターフロント地区の再整備、既存の産業施設の移転による新しい業務拠点（New CBD (Central Business District)）の整備、遊休施設を活用したベンチャービジネスを支援するゾーンの整備、さらには交通渋滞を解消するための広域環状道路（Ring Road）の整備や公共交通ネットワークの強化など、都市構造・土地利用及び都市インフラに関する改善の提案をしています。

今後、業務の第二ステージとして、日本国内におけるTODやブラウンフィールドの再開発の豊富な経験と知見を活かして、重点的開発エリアである『ウラジオストク駅周辺エリア』と『New CBD』の整備についての都市開発マスタープランを、本年12月までに策定する予定となっております。策定にあたっては、AHMLと協力して、沿海州政府及びウラジオストク市と協議を進めております。

■AHML及びIntegrated Development Institution for the Housing Sectorについて

AHML（住宅信用担保機構）は、1997年のロシア連邦政府の決定に基づき、住宅及び住宅担保市場に関する政府の政策を実行する機関として設立されました。また、Integrated Development Institution for the Housing Sector（住宅統一開発研究財団）は、ロシアの住宅セクターの包括的な支援や国民にとってアフォーダブル（入手可能）な住宅の整備を目的として、AHMLが2015年に設置したものです。

AHMLの主な目的は、住宅担保市場、賃貸住宅並びに不動産基金の開発、住宅セクターにおける投資促進政策の実行、デベロッパーへの土地の提供、並びに快適で質の高い住宅環境の整備となっています。

■日建設計について

日建設計は、建築の設計監理、都市デザインおよびこれらに関連する調査・企画・コンサルティング業務を行うプロフェッショナル・サービス・ファームです。1900年の創業以来、国内外約50カ国250都市、25,000件以上のプロジェクトに携わってきました。

私たちの志を表現した「EXPERIENCE, INTEGRATED」には、今後さらに人々の想いに応え、社会環境デザインの先端を拓いていく決意が込められています。クライアントの想いや経験に、日建グループの多種多様な専門性と蓄積した経験を組み合わせることで、世界の人々に豊かな体験をお届けしていきます。

本件に関するお問い合わせは、日建設計 広報室 青木 までお願いします

aoki.masaya@nikken.jp

03-5226-3030（代表）